

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3 年	学校	193	76	66	55	2.8	6.6	2.6
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
4月19日	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	192	61.6	67.2	66.9	63.0	65.0	9.8	2.4	6.7	7.2	4.6
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	55.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
9月6日	大阪府	—	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1
2 年	学校	229	66.1	48.4	60.8	61.7	66.9	8.5	6.3	16.1	8.7	6.5
	大阪市	—	58.7	44.6	48.1	52.6	55.2	8.6	5.9	15.8	8.3	6.4
1月11日	大阪府	—	59.6	44.4	49.0	53.1	56.1	8.5	6.3	16.1	8.7	6.5
1 年	学校	239	64.3	58.1	64.4	62.9	66.4	12.5	3.3	8.0	3.1	5.3
	大阪市	—	57.8	51.8	54.3	55.0	58.3	12.1	4.9	7.6	5.3	5.1
1月11日	大阪府	—	58.6	-	55.0	-	59.1	12.5	-	8.0	-	5.3

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3 年	学校	179	129.0	129.1	178.6	117.2
10月19日	大阪市	—	102.8	105.4	152.4	96.6

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	229	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2 年 男 子	学校	30.39	27.21	43.50	54.51	86.39	380.00	7.93	200.79	20.25	43.41
	大阪市	28.88	26.10	42.66	51.66	77.74	425.87	8.08	196.13	19.98	40.80
	全 国	28.99	25.74	43.87	51.05	78.07	409.81	8.06	196.89	20.28	41.04
2 年 女 子	学校	23.62	23.52	46.77	47.44	55.04	299.00	9.02	170.64	12.41	49.63
	大阪市	23.08	21.91	45.40	46.34	51.72	321.08	9.07	166.28	12.26	47.00
	全 国	23.21	21.67	46.07	45.81	51.60	302.89	8.96	167.04	12.45	47.42

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3 年	学校	193	76	66	55	2.8	6.6	2.6
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
4月19日	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

<国語>

本年度の学力・学習状況調査において国語の平均正答率は76%と、大阪府と比較して+9ポイント、全国と比較して+7ポイントと、大阪府平均、全国平均を上回った。

領域別に得点率を全国と比較し、詳細を見ていくと、「話すこと・聞くこと」については、5.2ポイント、「読むこと」については12.6ポイント上回る結果となった。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、9.2ポイント、「我が国の言語文化に関する項目」では1.8ポイント上回ることができた。しかし、「書くこと」の項目では1.7ポイント、「情報の扱い方に関する項目」では、1.7ポイント下回る結果となった。

また、評価の観点別では「関心・意欲・態度」について全国平均と比較すると6.5ポイント、「知識・技能」では5.9ポイント上回る結果となった。

全国平均を大きく上回っている項目がいくつか見受けられ、合計でも全国平均を上回ることができたことは一定の評価ができる。新たな学習法を取り入れたプリントの作成や、生徒の自信ややる気につながる小テストの実施、言語活動による主体的な学びを展開してきたことが結果につながったと考えられる。

一方、課題として、「書くこと」の観点があげられる。自分の考えていることを話すといった活動はできる反面、文章にすることへの抵抗があると考えられる。また、「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する」問題の無回答率が全国に比べて0.1ポイント低い程度であり大差なく、自信のない問いに対しては解答することそのものをあきらめてしまうという課題も見えてきた。

<数学>

全国平均と比較すると、本校の平均正答率は66%で、大阪市平均を15ポイント、全国平均を14.6ポイント上回った。特に「数と式」の領域では、全国平均より19.3ポイント上回っており(本校:76.0%)、基礎的・基本的な計算の技能は身につけていると考える。また記述式問題においても、全国平均を13.5ポイント上回った(本校:48.9%)。

生徒質問紙では、「数学の勉強は好きですか」「数学の授業の内容はよくわかりますか」の2項目において、最も肯定的な「当てはまる」と回答した生徒の割合が、全国平均をそれぞれ3.8ポイント、28.1ポイント上回った。

本校で実施している習熟度別少人数授業では、一人ひとりに目を配りやすくしており、基礎的・基本的な学力の定着が図れたことが、今回の結果から見て取れる。しかし、全国平均を上回るものの、数量関係を読み取り数学的な表現を用いて自分の考えを説明する力の向上が課題である。

<理科>

本年度の学力・学習状況調査について、理科の平均正答率は55%と、大阪府と比較して+8ポイント、全国と比較して+5.7ポイントと大阪府平均、全国平均をともに上回った。

領域別に得点率を全国平均と比較すると、「エネルギー」について+2ポイント、「粒子」について+6ポイント、「生命」について+5.3ポイント、「地球」について+8.1とすべての領域で全国平均を上回った。さらに、評価の観点別でも全国平均をすべて上回る結果となった。

一方、問題別で比較してみると、日常生活の中で物体が静電気を帯びる現象を選択する問題では、全国及び大阪府の平均正答率がそれぞれ44.2%、41.2%に対して、本校は37.3%と下回る結果となった。また、力のつり合いに関する問題では、全国及び大阪府の平均正答率をともに上回っていたが、本校の正答率が2割を下回り、力のつり合いを含めた「エネルギー」を柱とした領域に対して、苦手意識があると考えられる。(全国:15.3%、大阪府:13.8%)

さらに、問題形式別では2者を比較したときの相違点を述べる記述式において、全国の平均正答率を-5.6ポイントと下回る結果となった。(全国:74.5%、本校:68.9%)

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

【今後に向けて】

＜国語＞

今回の調査では、「書くこと」に対して課題を抱えていることが明らかになった。授業における生徒間の対話や言語活動の様子からも、考えたり話したりすることは好きだが、いざ記述となると手が止まってしまう生徒が一定数見受けられる。正しい解答を書かなければならないという意識が強いため、自分の考えたことをまずは書いてみようという意識が希薄なことが原因と考えられる。

文章をどのタイミングでも編集できるタブレットによる記述を活用し、自分の考えや意見を文にする機会を増やすなどに取り組むことが必要だと考えられる。

また、一定の成果があった「知識・技能」の項目に対する取り組みはチーム・ティーチングなどを活用し、今後も実施していく。

生徒の実態に応じて、「主体的・対話的で深い学び」が実践できるよう、試行錯誤しながらも、実生活に結び付く授業を研究・実践し、その取り組みを推進していく。

＜数学＞

数学の学習を通して、言葉や式・グラフ・表などを適切に用いて問題を解決する力、根拠を明らかにし、筋道立てて自分の考えを説明する力をつけていくことは非常に大切なことである。

今後も習熟度別少人数授業を通して、授業内容の定着をより一層図りたい。また、文章から数量関係を正確に読み取る力を養っていくために、問題文をしっかりと読むことを意識させていきたい。さらに数学の楽しさや優位性を考え、話し合い、発表するという言語活動の実践にも力を入れたい。

アンケート結果から「数学の授業の内容はよく分かる」「数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」の2項目について、最も肯定的な「当てはまる」と回答した生徒の割合が64.2%（府平均+25.9）、49.2%（府平均+9.5）であった。

今後は、より一層生徒が数学を理解しようとする学習意欲の向上や姿勢を維持しつつ、数学の楽しさに触れられるような授業づくりをしていきたい。

＜理科＞

全国学力・学習状況調査について、学校平均点が全国及び大阪府の平均点を上回ることが明らかになった。この結果より、一定の学習の定着がはかれていると思われる。基礎的な知識の定着に向けて、1年生から単元ごとの白プリントや、授業での演習を実施してきた成果と考えられる。

この学年は、コロナウイルス感染拡大防止対策下において、実験・観察の機会をもつことが難しい状況が続いていた。「知識・技能」の観点の正答率が全国の平均を+5.7ポイント上回っているものの、授業の中で学習内容や実験結果を文章化したり、対話・発表したりする機会が少なかったことは課題であると考えられる。

今後、引き続き基礎・基本の定着を行いつつ、実験の条件等を答える応用問題への対策をしていく必要があると考えられる。生徒の興味関心が高まるような動機付けと、日常生活との関連付け、実験の結果を予想したり検証したりできるような工夫を行う。

また、正答率の人数分布において45%未満に分布する生徒は、理科に対して苦手意識を持っていることが予想される。生徒が興味関心をもって学習に取り組めるような授業の導入をすると共に、より基礎・基本が定着するよう、教材を工夫し、実力テスト等を振り返る機会を設け、単元ごとの目標達成を実感できる授業を展開していく。生徒が自ら、成果を実感し課題を見つけることができるよう、授業を工夫していくことが重要であると考えられる。

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	192	61.6	67.2	66.9	63.0	65.0	9.8	2.4	6.7	7.2	4.6
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	55.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
	9月6日 大阪府	—	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1
2 年	学校	229	66.1	48.4	60.8	61.7	66.9	8.5	6.3	16.1	8.7	6.5
	大阪市	—	58.7	44.6	48.1	52.6	55.2	8.6	5.9	15.8	8.3	6.4
	1月11日 大阪府	—	59.6	44.4	49.0	53.1	56.1	8.5	6.3	16.1	8.7	6.5
1 年	学校	239	64.3	58.1	64.4	62.9	66.4	12.5	3.3	8.0	3.1	5.3
	大阪市	—	57.8	51.8	54.3	55.0	58.3	12.1	4.9	7.6	5.3	5.1
	1月11日 大阪府	—	58.6	-	55.0	-	59.1	12.5	-	8.0	-	5.3

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

○中学生チャレンジテスト(3年生)

【成果と課題】

<国語>

本年度のチャレンジテストにおいて、国語の平均得点率は、大阪府の53.8%を7.8ポイント上回る61.6%であった。

分類別に得点率を大阪府平均と比較して詳細を見ていくと、次の通りである。

「学習指導要領の領域等」の分類では、「知識及び技能」の区分について、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では7.3ポイント、「情報の扱い方に関する事項」では7.0ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」では8.2ポイント上回っている。また、「思考力、判断力、表現力等」の区分について、「話すこと・聞くこと」では5.1ポイント、「書くこと」では7.1ポイント、「読むこと」では8.4ポイント上回っている。

「評価の観点」の分類では、「知識・技能」の区分では7.7ポイント、「思考・判断・表現」の区分では6.1ポイント上回っている。

「問題形式」の分類では、「選択式」の区分では9.9ポイント、「短答式」の区分では7.0ポイント、「記述式」の区分では5.3ポイント上回っている。

すべての項目において、大阪府の平均を上回ることができた。特に「読むこと」の項目では、大阪府の平均を大きく上回っている。これは、日ごろの授業の中で「どのように文章の内容を読み取ったかを班の中で発表する」といった活動や「読み取った内容をどのような文章の形で答えると相手に伝わるのか、正解の解答になるのか周りの生徒と話し合う」といった取り組みを行ったことが要因だと考える。

また、「知識・技能」や、古文が中心となっている「我が国の言語文化に関する事項」などで大阪府の平均を上回ることができたのは、習熟度別授業を取り入れるなど、生徒のニーズに合わせて授業を展開してきた効果が表れているからだと考える。

課題として、「記述式」で解答を行う問題に関しては、「選択式」の問題などに比べると大きな差があるとは言えない結果となった。授業中の文章を書く時間で、書くこと自体をあきらめる生徒はおらず、粘り強く書くという姿勢は身につけているので、問題の意図を正確に捉え、聞かれていることについて「正確に書く」ということが課題だと考えられる。

課題となった「記述式」の問題においては、副教材を活用し、正確に書くという練習を積み重ねていく。

また、今後も「文章から読み取ったことをまとめ、それを人に伝える」ということを重点に、学習活動に取り組んでいく。さらに、「主体的・協働的な学習」「課題解決的な学習」「グループワーク」等、様々な学習活動から生徒に迫り、生徒の「主体的・対話的で深い学び」につなげられるよう努める。

ICT機器や学習者端末を利用した授業も工夫し、生徒の興味・関心を引き出していくようにする。また、「読み書き」といった「基礎」を充実させるために、反復学習や復習プリントなどを徹底して行うことで、さらなる語彙・知識の定着を図る。

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

＜社会＞

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、社会の学校平均点は、大阪府の平均55.4点よりも11.8点高い、67.2点であった。

領域別に見た得点率では、地理的分野が大阪府の平均55.7点よりも13点高い、68.7点であり、歴史的分野が大阪府の平均55.1点よりも10.1点高い、65.6点であった。また、得点の人数の分布をみると、大阪府全体のピークが55～59点に対し、65～69点に14.1%が分布し、大阪府全体が80～89点に5%が分布しているのに対して、11.5%が分布しており、全体的な得点力が高いことがわかる。

今後の課題としては、歴史的分野の「江戸時代」・「大正時代」の正答率が、大阪府平均と比べて差が小さい、もしくは、低いいため、この時代の向上があげられる。

観点別に見た得点率でも、2観点とも大阪府の平均を上回った。思考・判断・表現の観点については大阪府との差が13.2点高く、授業時にたくさんの資料を提示し、考え・読み取る機会を充実させた成果が出ている。

問題形式別の得点率でも、記述の形式の得点率が大阪府の平均32.4点よりも15.点高い、47.6点であり、普段から授業用ノートに自分の意見を書かせたり、発表させたりしている成果が出ている。

各領域・単元・観点とも、大阪府の平均を上回ることができたが、歴史的分野の江戸時代・大正時代の正答率が低いいため、そのことを生徒に伝えることで、復習を促し、課題を出すなどして、学習の定着を図る。

また、今後も授業時にたくさんの資料を提示し、考え・読み取る機会を充実させ、普段から授業用ノートに自分の意見を書かせたり、発表させたりすることを続けていきたい。

＜数学＞

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は66.9点で10.9点上回った。

「数と式」の領域では、正答率が74.9%（府平均+11.2）となり、基礎的・基本的な計算の技能は身につけていると考える。その他の領域については「図形」の領域で73.4%（府平均+10.1）、関数の領域で56.6%（府平均+12.3）、データの活用59.8%（府平均+9.4）と全領域において上回った結果となった。

チャレンジテストの結果から、習熟度別少人数授業により生徒の多くは授業を理解し、基礎的・基本的な内容が身につけている。しかし、記述式の問題については、府平均を12.9%上回ったものの、本校の正答率は45.3%と低い結果であった。そのため、今後は数学を用いて事象を理解し、説明する力の育成に努めたい。また、言語活動を取り入れた授業展開の中で、思考力・判断力・表現力の育成に努めたい。

＜理科＞

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、理科の学校平均点は、大阪府の平均55.9点よりも7.1点高い、63.0点であった。得点の人数分布を見ると、大阪府全体では45～49点に人数分布のピークがあるのに対し、東中学校の人数分布では60～64点あたりに多数分布していて、学校平均を引き上げている。75～89点も人数分布が大阪府の平均より多く、学校の平均点を引き上げる原因になっている。また、40～44点あたりも人数が多く、少し極化している。

領域別に見た平均点では、4領域とも大阪府の平均点を上回っており、領域の違いによる平均点に偏りは見られなかった。観点別に見た平均点でも、全ての観点で大阪府の平均点を上回っていた。また、問題形式別の平均点でも、全ての形式で大阪府平均を上回っており、短答式や記述式よりも選択式の得点率が高くなった。一方で、問題別に詳しく見ていくと、ほとんどの問題で正答率が大阪府の平均を上回っているが、細胞分裂時の染色体の数を求める問題と遺伝子に関する問題の2問だけが大阪府平均よりもやや低かった。

本校の平均点が大阪府の平均点を上回っていることから、一定の学習の定着がはかれていると思われる。基礎的な知識の定着に向けて、1年生から単元ごとの白プリントや、授業での演習を実施してきた成果と考えられる。

問題形式別の平均点では、すべての項目で大阪府の平均を上回っているが、記述式の問題（化学変化における質量の変化）で「無解答」の生徒の割合が27.6%であった。この学年は、コロナウイルス感染拡大防止対策下において、実験・観察の機会をもつことが難しかった。特に、授業の中で学習内容や実験結果を文章化したり、対話・発表したりする機会が少なかったこと原因であると考えられる。

今後、引き続き基礎・基本の定着を行いつつ、記述式の問題への対策をしていく必要があると考えられる。そのため、生徒の興味関心が高まるような動機付けと、日常生活との関連付け、実験の結果を予想したり検証したりできるような工夫を行い、自らの考えをまとめ、発表する機会を増やしていかなければならない。

また、正答率の人数分布においても一つのピークである40～44点未満に分布する生徒は、理科に対して苦手意識を持っていることが予想される。生徒が興味関心をもって学習に取り組めるような授業の導入をすると共に、より基礎・基本が定着するよう、教材を工夫し、実力テスト等を振り返る機会を設け、単元ごとの目標達成を実感できる授業を展開していく。生徒が自ら、成果を実感し課題を見つけることができるよう、授業を工夫していくことが重要であると考えられる。

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

<英語>

本年度のチャレンジテストにおいて、英語の平均点は、大阪府が54.2点であるのに対し、本校は65.0点であり、大阪府平均を10.8点上回る結果となった。

分類・区分別に得点率(平均点/配点)を見ると、以下の通りである。

「学習指導要領の領域等」の分類では、「聞くこと」の区分で10.6ポイント、「読むこと」の区分で11.2ポイント、「書くこと」の区分では10.7ポイント上回っている。

「評価の観点」の分類では、「知識・技能」の区分で11.2ポイント、「思考・判断・表現」で10.4ポイント上回っている。

「問題形式」の分類では、「選択式」の区分で10.6ポイント、「記述式」の区分では11.4ポイント上回っている。

以上のように、すべての区分において大阪府平均を大きく上回った。

「聞くこと」の区分で大阪府平均を大きく上回ったのは、日頃の授業でC-NETの流暢な英語を聞くことや、単元ごとのリスニング問題を行っていること、また、定期テストや実力テストにおいても、毎回リスニング問題でその力を試す機会を設けていることが要因であると考えられる。

「書くこと」の区分においては、毎回の授業の中で並べ替えや和文英訳、自由英作文を練習問題や単元テストに組み込み、英文を書くことに慣れさせたことが、英語が苦手だと感じている生徒にも前向きに書こうとする姿勢がみられることにつながり、大阪府平均を大きく上回った要因であると考えられる。

また、「読むこと」の区分での得点率は今回も最も大きく大阪府平均を上回った。その要因としては、3年間継続して取り組んだ教科書本文の暗唱をベースとした基礎的な構文への理解と、3年生になってから英語演習の授業で取り組んだ1, 2年生の範囲の文法事項の復習と初見の長文を読み込む練習が、一定の効果をあげたためであると思われる。

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

2年生

【成果と課題】

＜国語＞

国語の合計点を見ると、66.1点と大阪府平均を6.5点上回っている。

分類別に得点率を大阪府平均と比較して詳細を見ていくと、次の通りである。

「学習指導要領の領域等」の分類では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の区分で0.8ポイント、「情報の扱い方に関する事項」の区分で0.4ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」の区分で1.8ポイント、「話すこと・聞くこと」の区分で1.5ポイント、「書くこと」では1.5ポイント、「読むこと」では3.5ポイントと全項目において上回っている。

「評価の観点」の分類では、「知識・理解」の区分で2.9ポイント、「思考・判断・表現」の区分で5.8ポイントと全項目において上回っている。

「問題形式」の分類では「選択式」の区分では1.9ポイント、「短答式」の区分では3.5ポイント、「記述式」の区分では1.1ポイントと全項目において上回っている。

以上のように、すべての分類、区分において大阪府平均を上回るという結果になった。

今回のチャレンジテストでは、全ての項目で大阪府の平均点を上回ることができている。しかし、各分類の得点を配点に対する得点率で計算した場合、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の区分において、その得点率は大阪府平均から3%上回るにとどまっている。その他の分野が7%前後上回っていることを考えると、この分野に課題があると考えられよう。

設問別の集計でも、正答率が大阪府平均を下回っているのは、漢字の読みに関する設問に限られている。そのため、読解力を支える「知識・技能」の分野である、漢字や言葉の知識の定着といった、基礎的な知識の復習と定着が今後の喫緊の課題としてあげられる。

これまでの授業の中では、文章読解において、論理的に読むことを意識した授業を行ってきた。こうした取り組みには生徒の関心も高く、意見交換等のアクティブラーニングに積極的に取り組む姿も多く見られる。その成果か、「読むこと」や「書くこと」について、ある一定の結果が出ていることは好ましく感じられる。

一方、課題となる語彙の分野では、理解したことを反復して定着させるには練習量が不足しているだけでなく、自主的、主体的に取り組む生徒の少なさも感じられる。その解決に向け、習熟度別授業を中心にICT機器を利用しながら語彙、文法の理解をめざした授業を行ったところ、生徒の関心の高まりも感じられた。語彙、文法の力は、精緻な文章読解に欠かせない要素であるため、こうした機を逃さず、授業、家庭での反復、評価、という基本的なサイクルを繰り返しながら定着を図りたい。また授業においても習熟度別授業などをより活用しながら個に応じた指導を展開し、府平均に満たない生徒たちを伸ばしてやりたいと考える。

＜社会＞

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、社会の学校平均点は、大阪府の平均44.5点よりも3.9点高い、48.4点であった。

領域別に見た得点率では、地理的分野が大阪府の平均25.6点よりも2.2点高い、27.8点であり、歴史的分野が大阪府の平均18.9点よりも1.7点高い、20.6点であった。また、得点の人数の分布をみると、大阪府全体のピークが30～39点に対し、35～44点に22.3%、が分布し、大阪府全体が50～54点に8%に対して、12.4%が分布しており、全体的な得点力がやや高いことがわかる。

今後の課題としては、領域・観点・問題別のどの分布とも、大阪府の平均を上回ることができたが、思考・判断・表現の分野問題と、記述式の分野問題別についての正答率が低いため、そのことを生徒に伝えることで、復習を促し課題を出すなどして、学習の定着を図る。今後も授業時にたくさんの資料を提示し、考え・読み取る機会を充実させ、普段から授業用ノートに自分の意見を書かせたり、発表させたりすることを続けていく必要がある。

各領域・観点・問題別とも大阪府の平均を上回ることができたが、歴史的分野の平均との差が小さいため、復習やプリントなどを用い、学習の定着を図る。

また、今後の歴史的分野の授業においても小テストなどを実施し、知識の定着を図り、より生徒が興味・関心をもてるような授業づくりを行う。

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

＜数学＞

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は60.8点で11.8点上回っていた。
各領域別の平均点は、「数と式」の領域は21.5点(府平均+4.2)、「図形」の領域は23.7点(府平均+4.7)、「関数」の領域は15.7点(府平均+3.0)であり、全領域で上回った。

「関数」の領域は、府平均は上回っているものの、平均得点率が47.6%であり、50%に満たない。また、観点別に見ると、「思考・判断・表現」の観点で、平均得点率が44.7%である。解答別では、「選択式」で64.7%、「短答式」で60.9%であり、これらは50%を上回っているが、「記述式」では43.3%で50%に満たない。平均無回答率で比べると本校は16.1%であり、府平均と同じであった。

以上の結果から、解けないと判断した問題には取り組まない傾向があることや、難しい問題に積極的に取り組んでいない可能性があることがわかる。日ごろから生徒たちが自ら問題を解く時間を長めに確保し、諦めずに問題に取り組む姿勢を身に付けさせたい。

＜理科＞

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、理科の学校平均点は、大阪府の平均53.1点よりも8.6点高い、61.7点であった。得点の人数分布を見ると、大阪府全体では70～74点に人数分布のピークがあるのに対し、東中学校の人数分布では80～84点ピークとして65～74点あたりに多数分布していて、学校平均を引き上げている。また、45～49点も人数分布が多く、若干2極化の傾向が見られる。

領域別に見た平均点では、3領域とも大阪府の平均を上回っていた。中でも「生命」領域の得点率ももっとも高かった。観点別に見た得点率でも、3観点とも大阪府の平均を上回り、「知識・技能」の観点が高かったが、大阪府の平均に対しては、「思考・判断・表現」の観点の方が高かった。また、問題形式別の平均点でも、全ての形式で大阪府平均を上回っていたが、記述式の得点率が高かった。問題別に詳しく見ていくと、どの分野においても、実験・実習に関わる問題の得点率が高かった。

本校の平均点が大阪府の平均点を上回っていることから、一定の学習の定着がはかれていると思われる。1年生から、ワークシートを使った授業を行い、基礎的な知識の定着と、小单元ごとの演習プリントなども組み込み、これらを、カメラ画像を利用して生徒とともに定着度を確認しながら授業を進めてきた成果と考えており、今後も続ける予定である。記述式の得点率が高かったことも、生徒とともにワークシートを書いたり、発表させたりしながら授業を進めてきた結果と考えられる。

実験・観察においては、コロナ下で理科室は使用できなかったが、カメラを使って教室で生徒参加型の演示実験を行ってきたが、生徒の実験・観察に対する興味関心は高かった。今後、理科室の使用とともに、生徒の興味関心が高まるような演示実験の工夫、生徒実験での生徒の手書きレポートの作成、結果の予想、結果の考察の時間の確保と工夫を行っていく。

得点の人数分布において下のピークとなった45～49点の枠に分布する生徒は、理科に対しての苦手意識を持っていることが予想され、興味関心をもって学習に取り組めるような授業の工夫をすると共に、より基礎基本が定着するよう、教材を工夫し、確認テスト等で生徒が小单元ごとの目標達成を実感できる授業を展開していく必要があると考える。

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

＜英語＞

本年度のチャレンジテストにおいて大阪府の平均が56.1点であったのに対し、本校は66.9点であり、大阪府平均より10.8ポイントと大きく上回る、という結果となった。

学習指導要領の領域等において「聞くこと」の領域においては、2.9ポイント上回ることであった。C-NETとの授業やリスニングテストの実施だけでなく、授業においても小テストでのリスニングや、洋楽のリスニングを実施することで、高い「聞く力」が定着していると考えられる。

「読むこと」の領域においては、3.9ポイント上回ることができた。一定の長さの英文を読み込むことを授業に取り入れていることで、文章を読み取る力がしっかりとついてきているという結果に結びついた。

「書くこと」の領域においては、4.0ポイント上回った。単元ごとの単語テストや確認テストを実施し、C-NETを含む複数教員で添削することが基本的な「書く力」の定着の一因であると考えられる。

また評価の観点においては、「知識・技能」の観点において5.3ポイント上回り、「思考・判断・表現」の観点において5.6ポイント上回るなど、どちらの技能も大阪府平均を大きく上回ることができた。

大阪府平均を本校は10.8ポイントと大きく上回るという結果であったが、さらに実力を伸ばすために今後も集中して授業に臨み、基礎力をつけるために繰り返して学習ができるよう、今後の授業構成を考える必要がある。

特に「書くこと」では、単語テストや各単元でのライティングなど授業中に実施できるものだけでなく、条件英作文を複数回実施したり、入試問題を意識した英作文に挑戦するなどして、日常的に英語を書く機会を増やすようにしていく。記述問題に対する苦手意識が見受けられるため、英文作成が大きく負担になることのないよう、単語や熟語の定着から始め、少しずつ文章へと移行していくように指導の体制を整える。

また「聞くこと」においては、授業中の単語や本文の聞き取り、音読や小テスト、定期テストでのリスニングだけにとどまらず、授業中での洋楽のリスニングやC-NETとのやり取りを増やせるように取り組む。聞くだけではなく英語を使って会話をすることで、集中して聞き取ろうという意識を高めていく。

今年度は、生徒が意欲的に授業に取り組む姿勢は見られたが、苦手意識を持っている生徒も存在する。その生徒達にも英語に対して、興味関心を持ってもらえるような授業を展開していく。今後は自分たちで目標をもって学習を進め、考えを深められる授業につなげられるよう、少人数授業やチームティーチングでの授業を活用し、生徒の学力の向上につなげていきたい。

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1年生

【成果と課題】

<国語>

本年度のチャレンジテストにおいて、本校の国語の平均正答率は64.3%と、大阪府平均の58.6%を5.7ポイント上回った。

学習指導領域別に得点率についても、すべての領域で大阪府平均を上回ることができた。「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、1.3ポイント、「情報の扱い方に関する事項」については、0.5ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」については、0.8ポイント大阪府平均を上回った。さらに「話すこと・聞くこと」については1.1ポイント、「書くこと」については0.9ポイント、「読むこと」については、2.0ポイント大阪府平均を上回っている。

評価の観点別では、「知識・技能」については62.0%となり、大阪府平均の57.1%を4.9ポイント上回った。さらに「思考・判断・表現」では62.6%となり、大阪府平均の56.8%を5.8ポイント上回った。無解答率については、12.5%で大阪府平均と同値であった。

ワークシートの工夫や言語活動による主体的な学びを展開してきたことが結果につながったと考えられる。また、漢字の書き取りの反復学習や小テストも継続して行ってきた成果である。ただ、無解答率の改善については課題がある。粘り強く解答する姿勢を養うことが求められる。記述形式の問題については書き方の基本を徹底させるなどの取り組みが必要だと考える。

すべての領域で大阪府平均を上回ることにはできているが、無解答率を下げることにはまだ課題があると考ええる。

ティームティーチング授業を展開したり、テスト前に習熟度別授業を行い、きめ細かな支援をしたりすることで、学力の定着を図る。基本的な読み書き能力の定着や、文章の要旨や自分の意見を書いたりする時間を単元ごとに工夫して作っていく。また、小テストや補習を行うことで、わかったという実感を持つことで、国語に対する苦手意識を払拭し、自信につなげる。

<社会>

本年度の中学生チャレンジテストにおいて、社会の学校平均点は、大阪市の平均51.8点よりも6.3点高い、58.1点であった。

また、正答率分布をみると、大阪市全体のピークが30～39%に対し、本校のピークは60～69%と、全体的な得点力が高いことがわかる。

各領域、観点、問題形式とも大阪市の平均を上回ることができた。今後は、中間層から上位層を増やすよう授業の工夫を行っていく。授業時に資料を掲示し、正確にグラフや表を読み取る能力に加え、普段から授業用ノートに自分の意見を書かせ、文章で表現する力を伸ばす。また、授業で積極的に発表する機会を設けることで、学びにむかう力を伸ばすことを行っていく必要がある。そうして、全体的に学力を向上できるよう工夫を重ねていく。

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

＜数学＞

大阪府平均と比較すると、本校の平均点は64.4点で9.4点上回っていた。

「数と式」の領域では、得点率が65.2%（府平均+10.2ポイント）となり、基礎的・基本的な計算の技能は身につけていると考えられる。また、「関数」の領域で得点率が61.9%（府平均+8.1ポイント）、「図形」の領域で得点率が66.7%（府平均+9.5ポイント）で、すべての領域において府平均を上回った。特に「図形」の領域において、「具体的な図形において、対称移動、回転移動を見出すことができる」については府平均+17.9ポイント、また「数と式」の領域において、「方程式を解く、方程式を活用して問題を解決する手順を理解している」府平均+10ポイント以上であった。この2つの領域においては、力をつけていると考えられる。

「関数」の領域において、「グラフから情報を読み取り、解釈する」については府平均+5.8ポイントと上回っているものの得点率が22.2%であり、関数についての理解を深め、グラフを読み、活用できる力をつけなければならない。

アンケート結果から「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている」の項目について、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が88.2%であり、府平均を1.5ポイント上回った。しかし、「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある」の項目については、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合が84.4%であり、府平均を1.1ポイント下回った。この回答結果から、自分の考えや意見を伝える場面をより多く設けることができると考えられる。

チャレンジテストの結果から、生徒の多くは授業を理解し、基礎的・基本的な内容は身につけている。しかし、記述の問題については、大阪府平均を8ポイント上回っているものの、本校の得点率は23.6%と低い結果であった。また、思考・判断・表現の観点の問題について、本校の得点率は36.2%（府平均+10.7ポイント）であった。

アンケートとチャレンジテストの結果から判断できる課題について、自分の考えを書いたり、発表したりする機会をより取り入れた授業で、思考力・判断力・表現力の育成に努める。

＜理科＞

本年度の中学生チャレンジplusにおいて、理科の学校平均点は、大阪市の平均55.0点よりも7.9点高い、62.9点であった。正答率の人数分布を見ると、大阪市全体では正答率50～59%に人数分布のピークがある。東中学校の人数分布では、正答率50～59%と60～69%に20%以上の人数が分布している。正答率0%～9%の人数分布は0%であり、90%～100%に全体の10%以上の人数が分布していることが、学校平均を引き上げていると考えられる。

領域別に見た正答率では、2領域とも大阪市の平均点を上回っており、特に生命の領域で正答率が高く、大阪市の平均を9.8%上回っている。観点別に見た正答率では、選択、短答、記述のすべてで60%を上回っているにもかかわらず、平均無解答率は3.1%である。

今後は、基礎的な学力の底上げが課題であり、無解答率の減少をめざす。

本校の平均点が大阪市の平均点を大きく上回っていることから、学習の定着がはかれていると思われる。授業では、生徒と教師が対話をしながら授業を進めていくことで、生徒の興味関心を深めるきっかけをつくった。基礎的な知識の定着に向け、授業の定着度を確認する小テストを実施するだけでなく、グループワークや生徒による演示実験など、主体的に取り組むことができるよう教材を準備してきた成果と考えられる。

また、ノートを使って、自学自習する習慣をつけさせ、自由研究などで興味を持ったことについて発表する機会を設けている。このことは、活用の正答率や「知識・技能」の観点の正答率が大阪市の平均よりも高くなった要因の一つと考えられる。

正答率の人数分布において50%未満に分布する生徒は、理科に対して苦手意識を持っていることが予想される。興味関心をもって学習に取り組めるような授業の工夫をすると共に、より基礎基本が定着するよう、教材を工夫し、確認テスト等で生徒が小單元ごとの目標達成を実感できる授業を展開していく必要があると考える。

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

＜英語＞

本年度のチャレンジテストにおいて、大阪府の平均が58.3点であったのに対し、本校は66.4点であり、大阪府平均より8.1ポイント大きく上回る結果となった。

「聞くこと」の領域においては、大阪府平均を2.4ポイント上回った。C-NETとの授業や定期テストにおけるリスニングテストだけでなく、授業での小テストにおいてもリスニング問題に取り組むことで聞き取りの力が定着し、高い「聞く力」が定着していると考えられる。

「読むこと」の領域においては、4.1ポイント上回ることができた。内容理解の問題に取り組むことを授業に取り入れていることで、文章を読み取る力がついてきているという結果に結びついた。

「書くこと」の領域においては、0.8ポイント上回るにとどまった。単元ごとに連語や並べ替えを含めた単語テストを実施しており、文章を書くための基本的な力はついていると考えられるが、それを文章にすることができていない生徒が多いと考えられる。

また、評価の観点においては「知識・技能」の観点において3.6ポイント、「思考・判断・表現」の観点においては3.8ポイント大阪府平均を上回っており、どちらの能力もまんべんなく身につけていると考えられる。

ただ、無回答率は大阪府と同じ5.3%であった。大阪市の無回答率が5.1%であることを考えると少し多い。自分が確実に理解している内容でなければ問題にチャレンジしない傾向が見て取れる。

大阪府平均を8.1ポイント大きく上回るという結果となったが、さらに実力をつけていくために今以上に集中して授業に臨み、基礎力をつけるために繰り返し学習ができるよう、今後の授業展開を考える必要がある。

特に「書くこと」では、強化を図る必要があると思われる。単語テストや短い英作文など授業中に実施できるものだけでなく、短い自由英作文などに挑戦するなどして、日常的に英語を書く機会を増やすようにしていく。また、英文作成に向けて、単語や熟語の定着から始め、自分の考えを英語で表現する力をつけていく指導を行う。

また「聞くこと」においては、授業中の単語や本文の聞き取り、音読や定期テストでのリスニングだけではなく、授業におけるリスニングテストやC-NETとの授業を通して、聞く力をつける活動に取り組む。その中で、「聞く」だけではなく英語を使って会話をすることで、「話す」という意識も高めていく。

また、様々なパターンの問題に取り組ませて、文章での受け答えや作文等に自信をもって取り組めるよう工夫した授業を行っていくことで無回答率を下げることができると考えられる。

今年度は、意欲的に授業に取り組む生徒も多数見受けられたが、苦手意識を持っている生徒も一定数存在する。その生徒達も、興味を持って取り組めるように授業を工夫していく。さらに、繰り返し英語で発表する機会を増やし、自分の考えを表現できる能力を身につけていき、少人数授業なども活用し、生徒の学力向上に努めていく。

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】 (スコア)	聞くこと 【リスニング】 (スコア)	書くこと 【ライティング】 (スコア)	話すこと 【スピーキング】 (スコア)
実施月日						
3 年	学校	179	129.0	129.1	178.6	117.2
10月19日	大阪市	—	102.8	105.4	152.4	96.6

○大阪市英語力調査(GTEC)

【成果】

本年度の大阪市英語力調査(GTEC)において、東中学校の平均スコア合計は555.9点であった。大阪市の平均スコア合計は457.2点であり、98.7ポイント上回る結果となった。

4技能についてそれぞれのスコアを見ると、以下の通りである。

「読むこと(リーディング)」の区分で26.2ポイント、「聞くこと(リスニング)」の区分で23.7ポイント、「書くこと(ライティング)」の区分では26.2ポイント、「話すこと(スピーキング)」の区分で20.6ポイントと、すべての区分において大阪市平均を上回った。

「読むこと(リーディング)」の区分においては、デジタル教科書を用い、ShadowingやRead and Look up等の音読練習を繰り返したり、音読の際に内容理解の質問を行うことや指示語の確認をすることで、内容把握の力を伸ばしていることが得点につながっていると考えられる。また教科書内のRetellの活動で、内容を説明する英文の作成に取り組んだことも成果につながっていると考えられる。しかし、長い文章や、表やグラフの読み取りなど、情報が多くなるにつれて間違いが増えてくることも見えてきた。

「聞くこと(リスニング)」の区分では、単元ごとに行うリスニングテスト、定期テストや実力テストでのリスニング問題でその力を試す機会を設けていることが得点の要因であると考えられる。加えて、日頃の授業におけるC-NETとのナチュラルなやり取りの中で生きた英語を育んでいることもまた要因の一つと考えられる。

「書くこと(ライティング)」の区分においては、日頃の授業での教科書本文の書き練習や、授業以外でも自由英作文を練習問題や単元テストに組み込み、英文を書くことに慣れさせたことが、英語が苦手だと感じている生徒の基礎学力の定着につながった。

「話すこと(スピーキング)」の区分においては、現在、教室内でのスピーキング活動などがある程度制限されているものの、短い時間でペアやグループでの会話活動を再開させられていることや、教科書本文の暗唱活動を定期的に取り入れられていることが好結果の一因であると考えられる。

【課題】

「読むこと」の区分では、教科書本文だけでなく、さらにそれ以外の長文等も授業で用いて読解力を養う。また、読むだけではなく、そのことをまとめたり発表したりする時間を確保し、内容理解を深めるようにする。

「聞くこと」の区分では、引き続き、ネイティブスピーカーの流暢な英語を聞くことやリスニングテストを通して、リスニング力を鍛えていく。また、リスニング教材等を使用し、授業中における英語力向上を図る。

「書くこと」の区分では、今までと同じように英作文に取り組ませる。また、正確に書く力を養うと共に、長い文章や自由英作にも対応できるようにする。

「話すこと」の区分では、授業での英語のやり取りを増やし、ペアやグループでの活動を精選しながら、実際に英語を使う活動を実施していく。

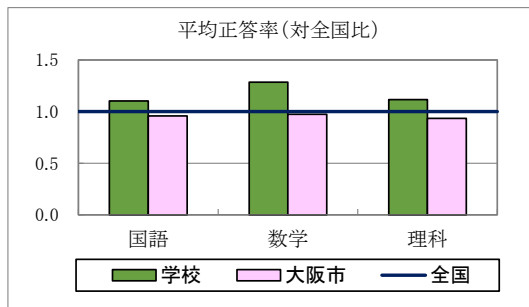
また、必要に応じて少人数学習や習熟度別学習を活用し個に対する学習支援を行っていく。

令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

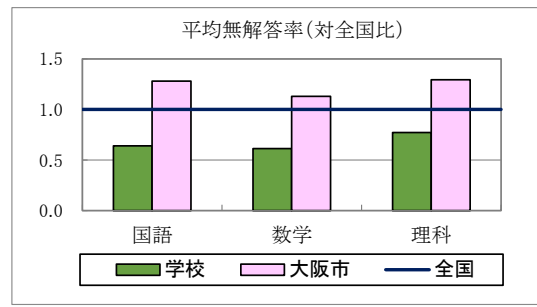
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)		
	国語	数学	理科
学校	76	66	55
大阪市	66	50	46
全国	69.0	51.4	49.3

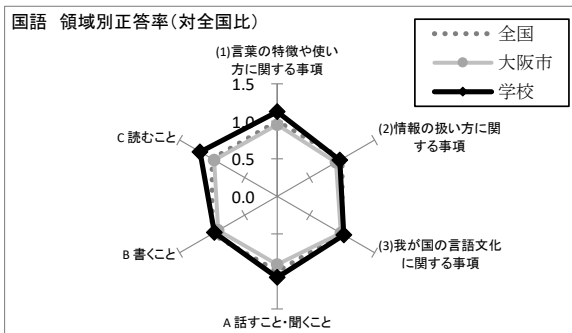
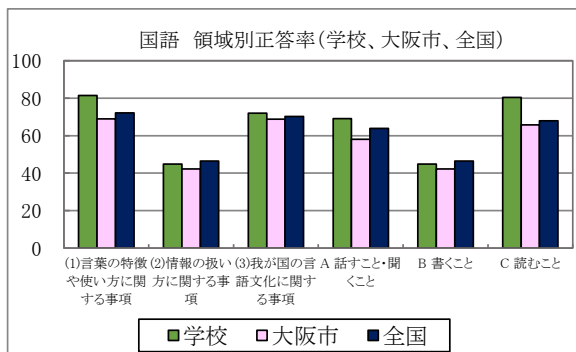


平均無解答率(%)		
国語	数学	理科
2.8	6.6	2.6
5.5	12.2	4.4
4.3	10.8	3.4



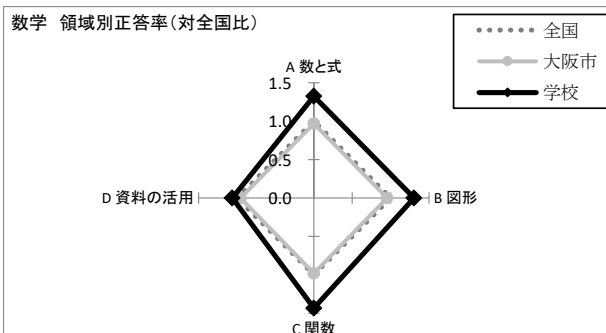
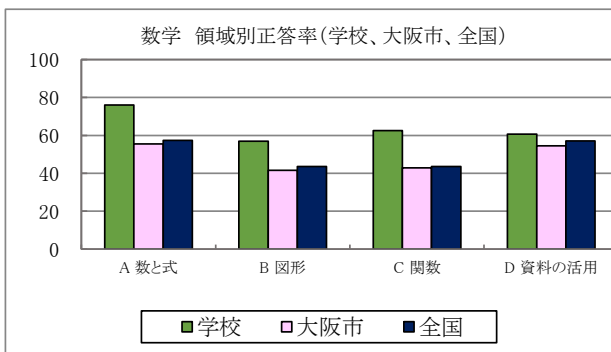
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	6	81.4	69.0	72.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	44.8	42.2	46.5
(3)我が国の言語文化に 関する事項	3	72.0	68.8	70.2
A 話すこと・聞くこと	3	69.1	58.0	63.9
B 書くこと	1	44.8	42.2	46.5
C 読むこと	2	80.5	65.8	67.9



【 数 学 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	76.0	55.5	57.4
B 図形	3	56.9	41.6	43.6
C 関数	3	62.5	42.8	43.6
D データの活用	3	60.6	54.5	57.1



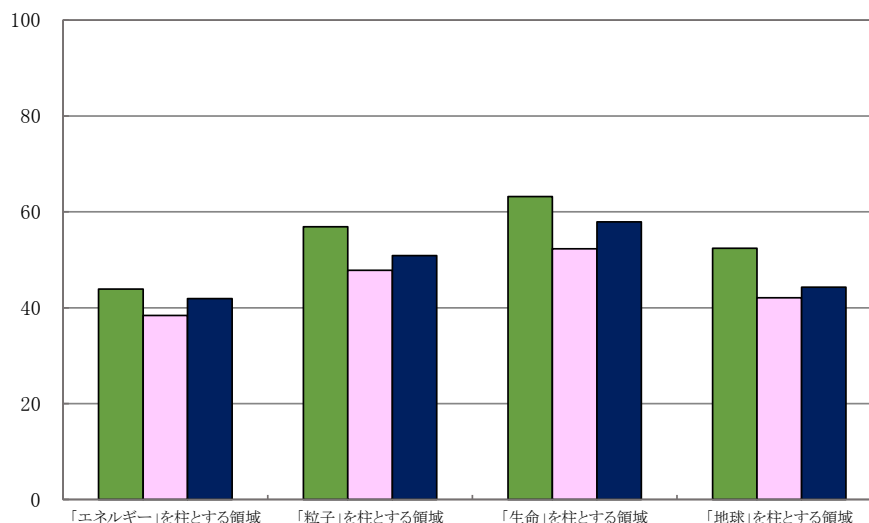
令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

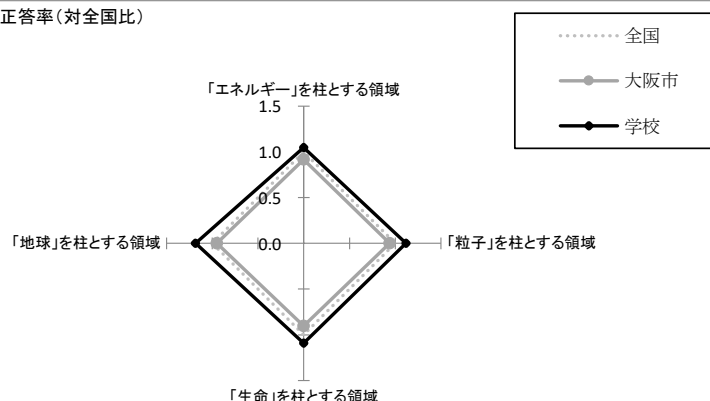
学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
「エネルギー」を 柱とする領域	6	43.9	38.4	41.9
「粒子」を柱とする 領域	5	56.9	47.8	50.9
「生命」を柱とする 領域	5	63.2	52.3	57.9
「地球」を柱とする 領域	6	52.4	42.1	44.3

理科 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



■学校 □大阪市 ■全国

理科 領域別正答率(対全国比)



令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

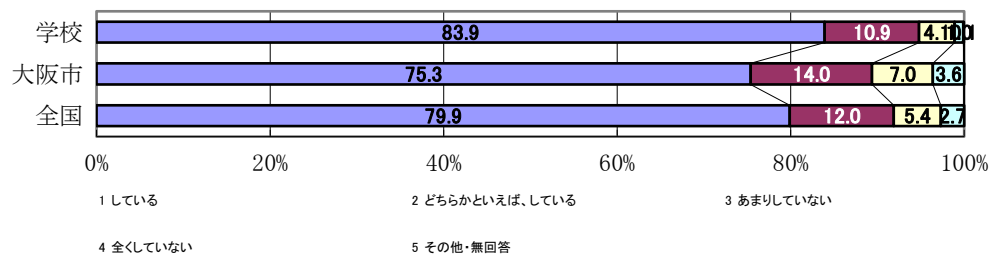
生徒質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

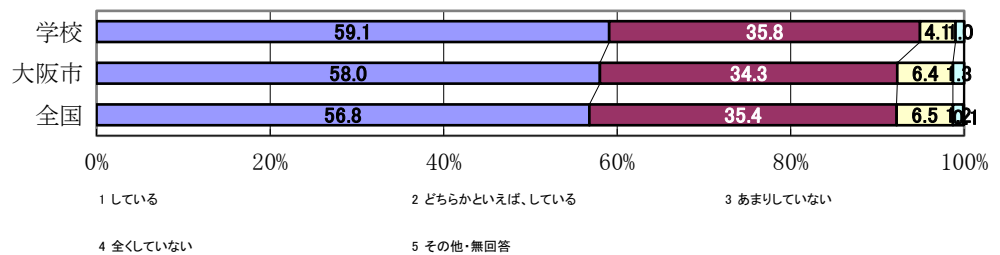
1

朝食を毎日食べていますか



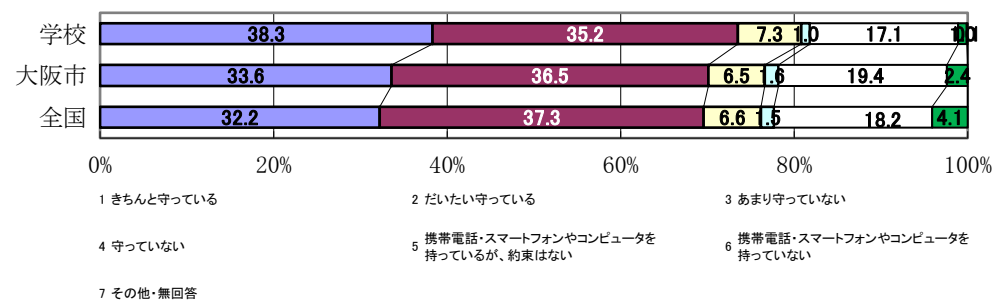
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



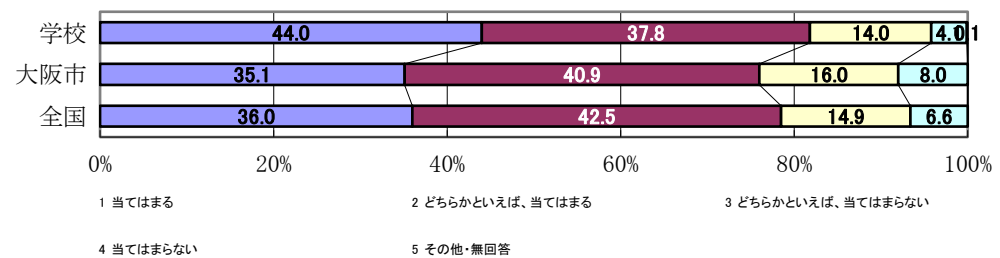
4

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、
家の人と約束したことを守っていますか



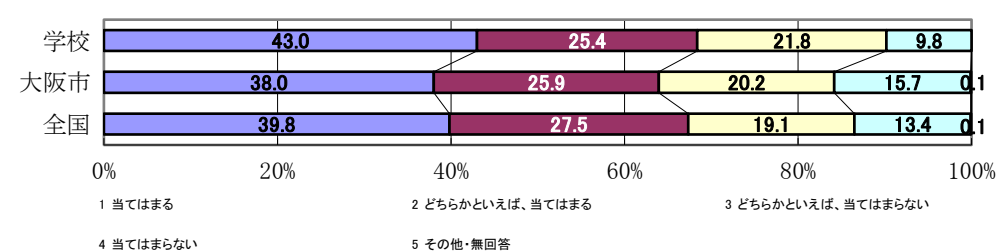
7

自分には、よいところがあると思いますか



9

将来の夢や目標を持っていますか



令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問紙より

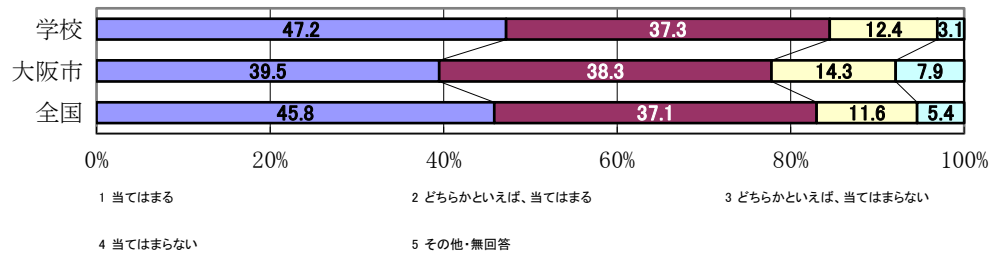


質問番号

質問事項

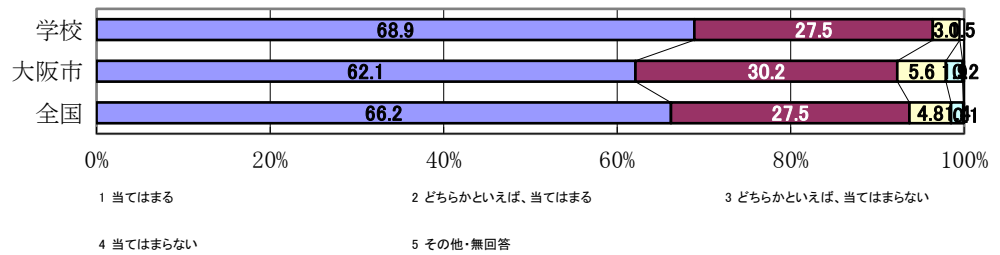
16

学校に行くのは楽しいと思いますか



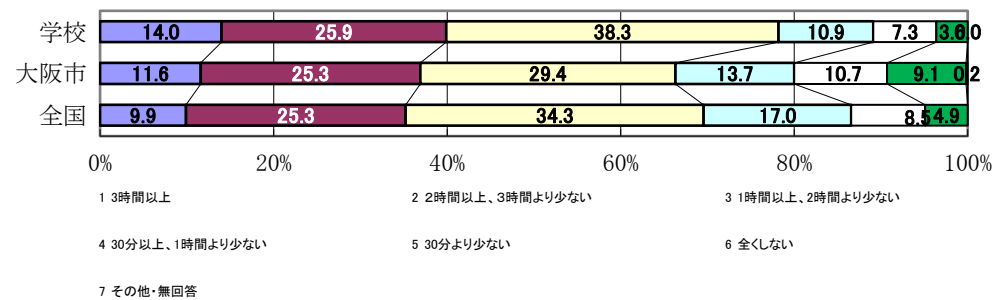
18

友達と協力するのは楽しいと思いますか



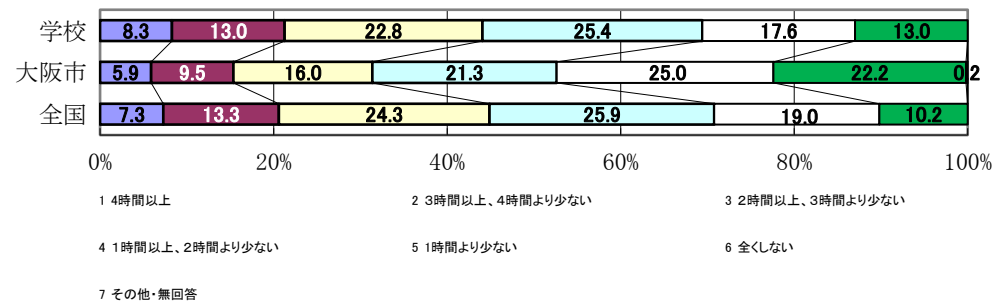
21

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



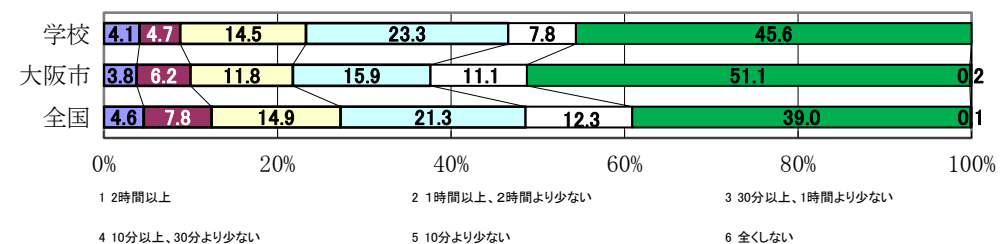
22

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



23

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問紙より

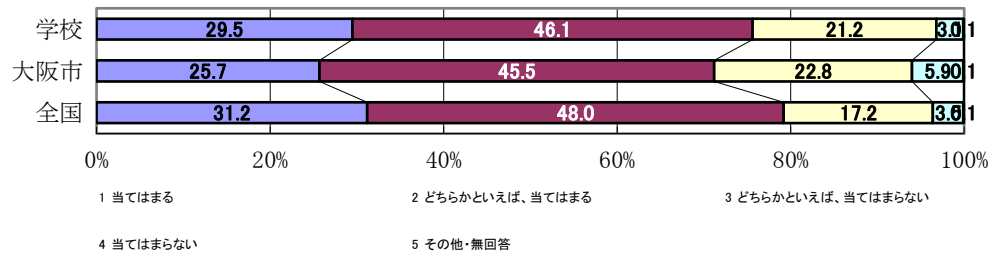


質問番号

質問事項

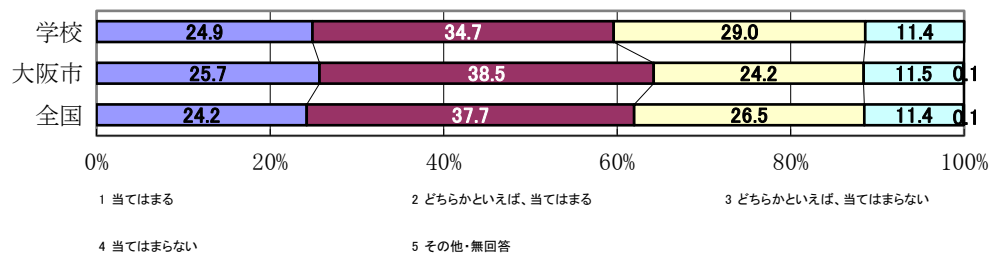
39

1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



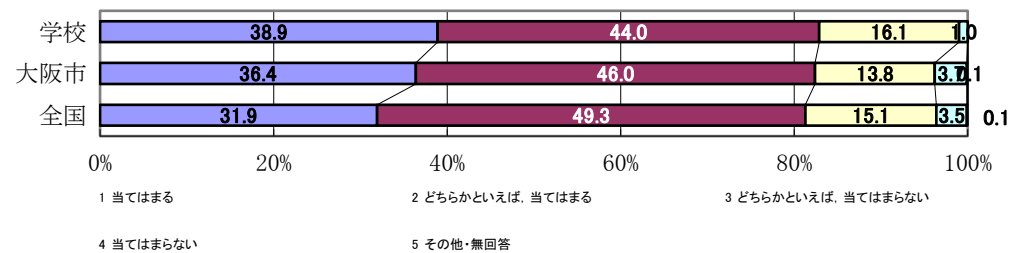
49

国語の勉強は好きですか



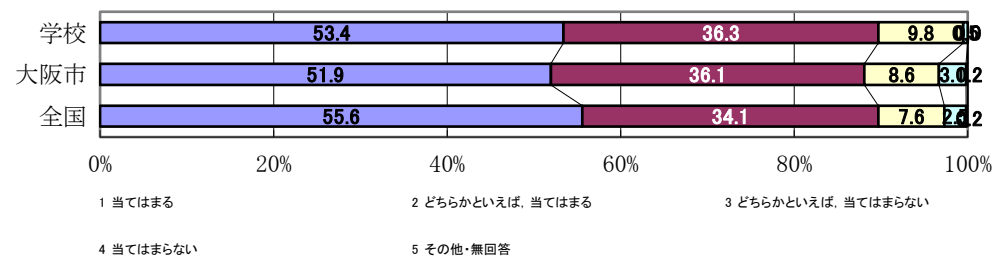
51

国語の授業の内容はよく分かりますか



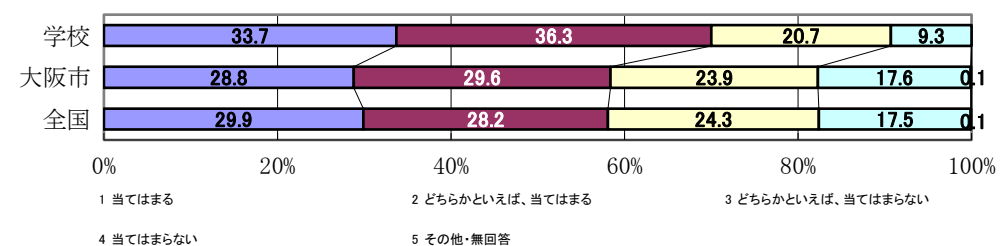
52

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



53

数学の勉強は好きですか



令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

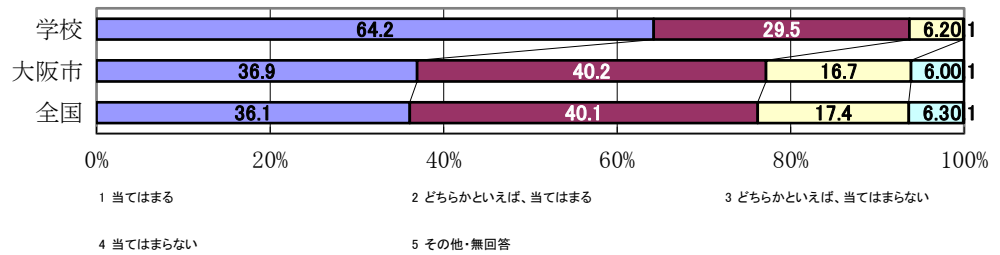
生徒質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

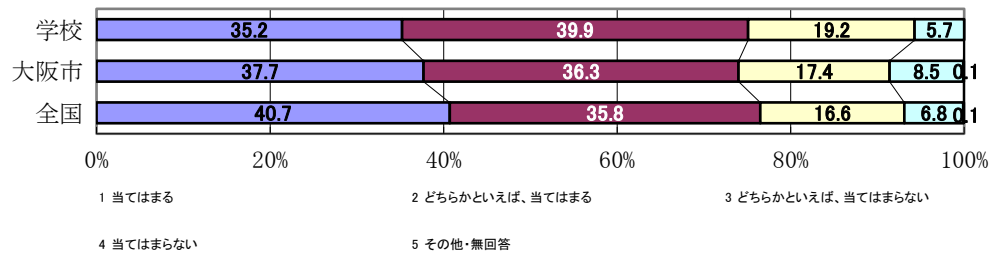
55

数学の授業の内容はよく分かりますか



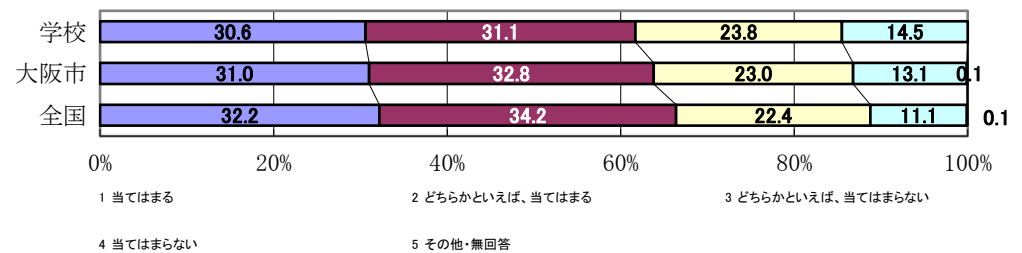
56

数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



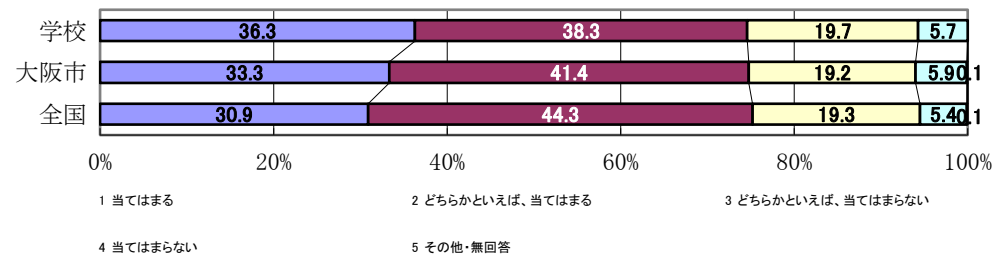
61

理科の勉強は好きですか



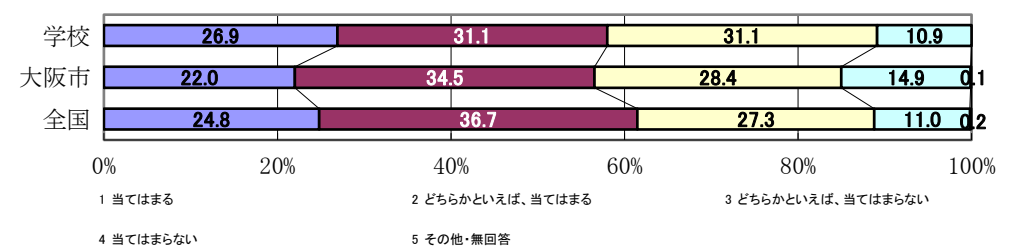
63

理科の授業の内容はよく分かりますか



65

理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



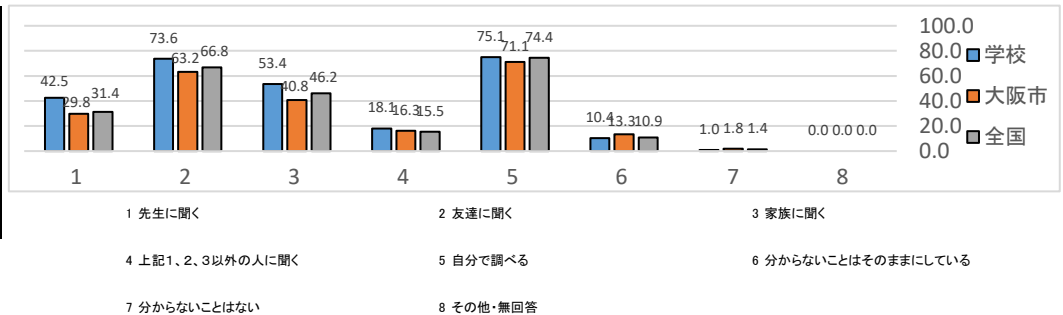
令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問紙より

質問番号
質問事項

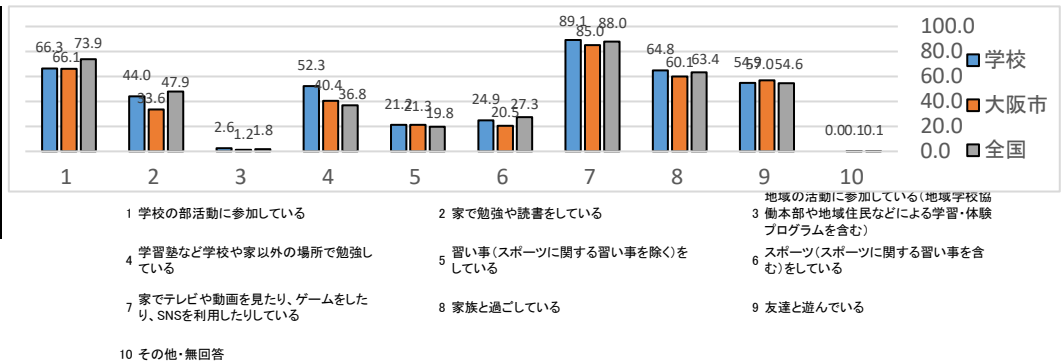
19

家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか(複数選択)



31

放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)



令和4年度 大阪市立東中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

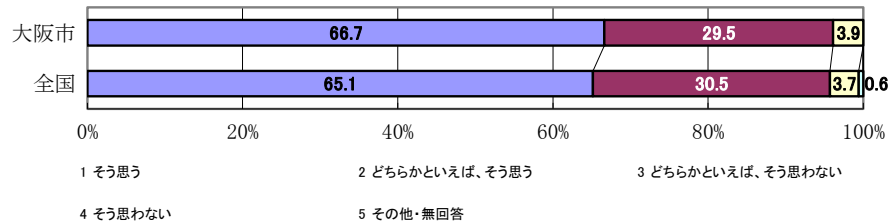
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

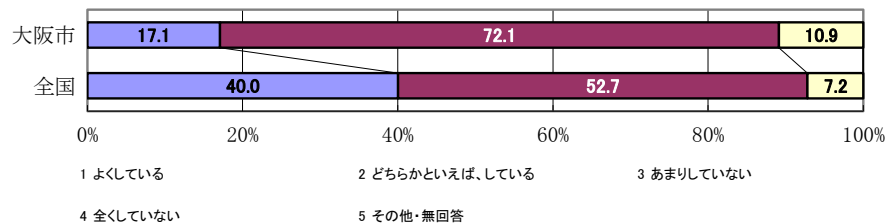
学校 「そう思う」を選択



19

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

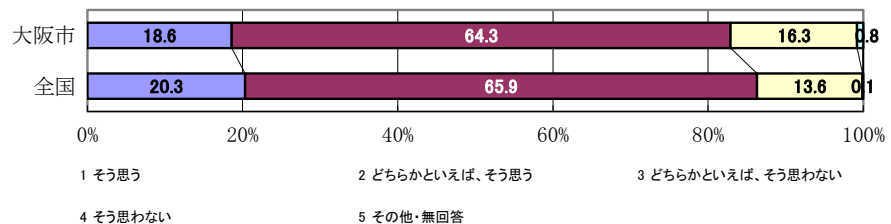
学校 「よくしている」を選択



26

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

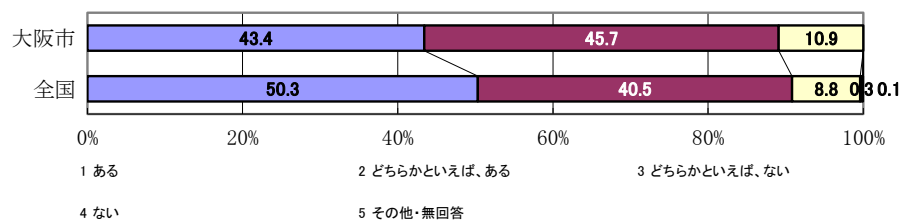
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



55

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか

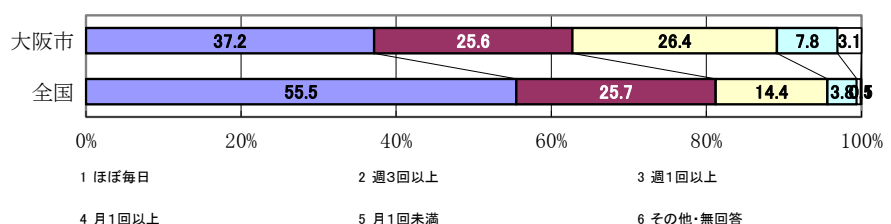
学校 「ある」を選択



57

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



令和4年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証 学校の概要

大阪市立東中

学校

生徒数

229

平均値

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール 投げ	体力合計点
男子	30.39	27.21	43.50	54.51	380.00	86.39	7.93	200.79	20.25	43.41
大阪市	28.88	26.10	42.66	51.66	425.87	77.74	8.08	196.13	19.98	40.80
全国	28.99	25.74	43.87	51.05	409.81	78.07	8.06	196.89	20.28	41.04
女子	23.62	23.52	46.77	47.44	299.00	55.04	9.02	170.64	12.41	49.63
大阪市	23.08	21.91	45.40	46.34	321.08	51.72	9.07	166.28	12.26	47.00
全国	23.21	21.67	46.07	45.81	302.89	51.60	8.96	167.04	12.45	47.42

結果の概要

男子は、全国及び大阪市平均に対して「握力」「上体起こし」「反復横とび」「20mシャトルラン」「50m走」「立ち幅とび」の6項目で上回った。また、「長座体前屈」「ハンドボール投げ」の2項目に関しても大阪市平均を上回った。体力合計点は全国平均に対して+2.37となり、大きく上回った。

女子は、全国及び大阪市平均に対して「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横とび」「20mシャトルラン」「立ち幅とび」の6項目で上回った。また、「50m走」「ハンドボール投げ」の2項目に関しても大阪市平均を上回った。体力合計点は全国平均に対して+2.21となり、大きく上回った。

「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問項目に、肯定的に答える割合が全国(大阪市)平均に対して男子+1.6(+3.7)、女子-1.0(+3.9)となった。

「1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合」は、全国(大阪市)平均に対して男子+1.6(-3.7)、女子+8.3(+0.4)となった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

体育的行事や昼休みの活動を含め、あらゆる機会を通して、生徒の運動やスポーツに対する興味・関心を引き出しながら、体力・運動能力向上にむけた取り組みを進めることができた。学校内で活動場所の制限があるにもかかわらず、体力・運動能力の向上に関して成果が現れたことは大変喜ばしい。

日常の授業では、能率的に安全に実施することで運動量を確保した。また、授業開始10分間での準備体操、補強運動を継続し、单元ごとに必要な体づくり運動や神経系のトレーニングを実施した。その成果もあり、体力の向上につなげることができた。

ICT(プロジェクター等)を活用して運動技能の細かな説明を行い、さらにグループワークやワークシートを積極的に取り入れ、運動技能の習得を目指した。また、多くの单元で測定結果を掲示し、目標・課題の明確化及び個人の成長の気づきにつなげることができ、主体的に学びがきっかけをつくることができた。

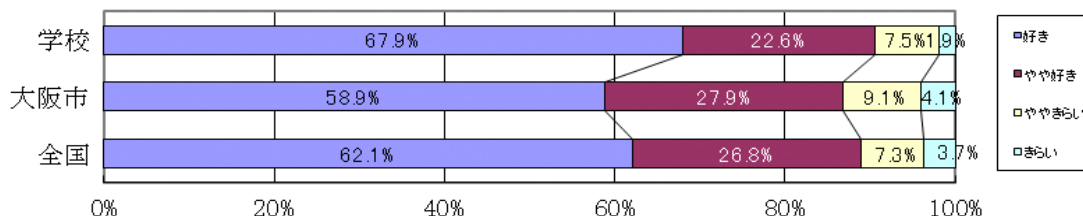
今後も既存の取り組みを軸としながら、今回の調査で明らかになった課題、特に「1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合」で全国平均から大きく離れている女子の結果の克服を目指すために、「わかる・できる・楽しい」授業の実践に努めたい。また、日常生活において、運動やスポーツと触れ合う機会を設けたい。学校ホームページ等を活用し、取り組みの様子や授業内容についても随時発信していきたい。

運動やスポーツについて(男子)

本校の特徴的な結果

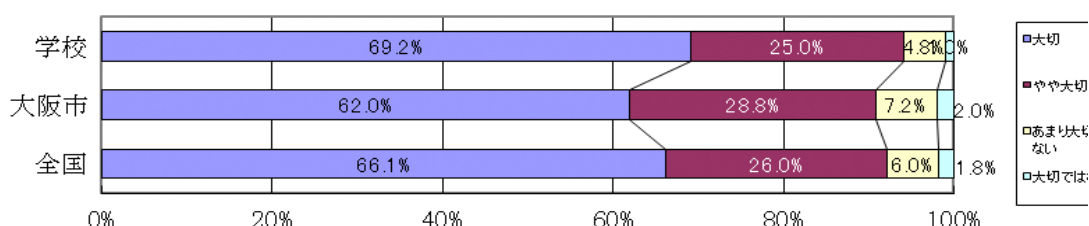
検証項目1

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。



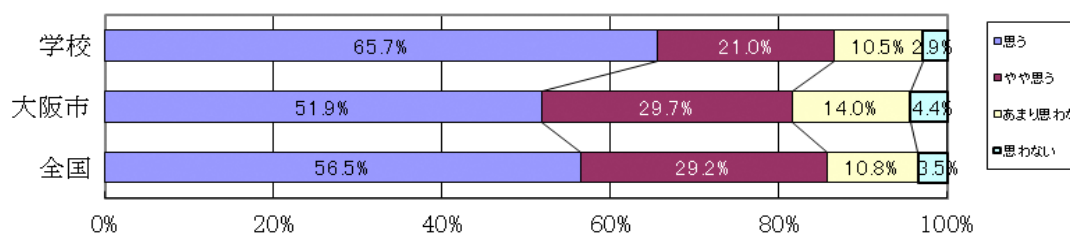
検証項目2

あなたにとって運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツは大切ですか。



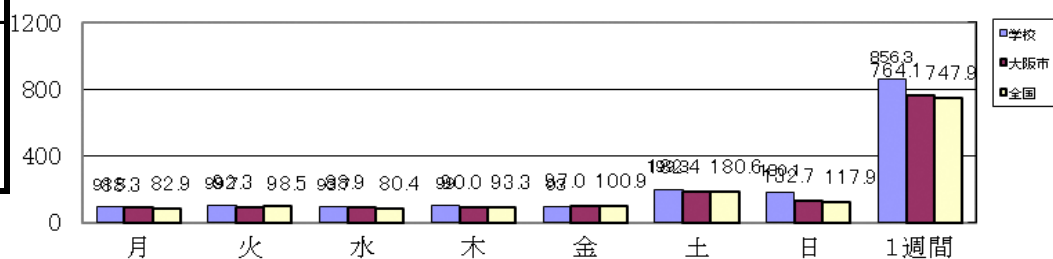
検証項目3

中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



検証項目4

学校の保健体育の授業以外で、運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツを1日どのくらいの時間していますか。



成果と課題

検証項目1～3では、肯定的な回答をした生徒がいずれも大阪市・全国平均を上回った。また、検証項目4では、運動やスポーツに前向きに、積極的に関われていることがわかる。今後も、運動やスポーツに対する興味関心を高め、「生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質や能力」の育成につなげていきたい。

今後の取組

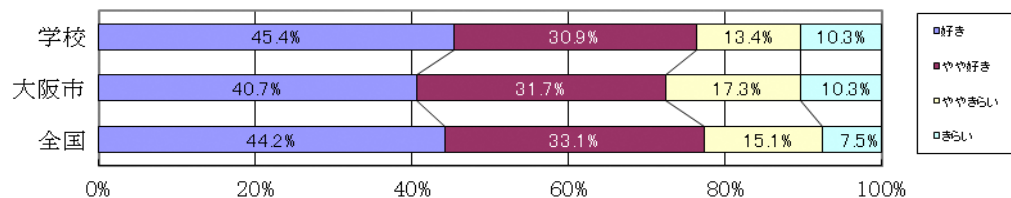
- ニュースポーツ(アルティメット、ドッジビー、インディアカなど)の導入。
- 体育的行事の充実。
- 運動環境の整備。

保健体育の授業について(女子)

本校の特徴的な結果

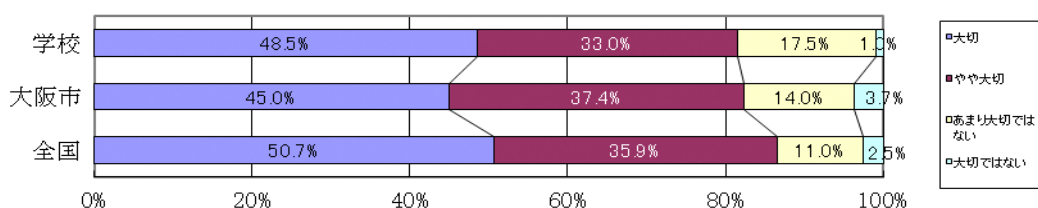
検証項目1

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。



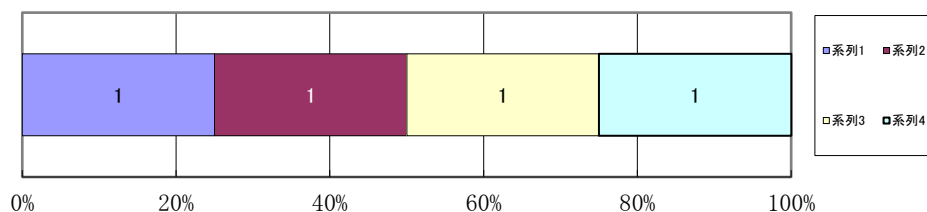
検証項目2

あなたにとって運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツは大切ですか。



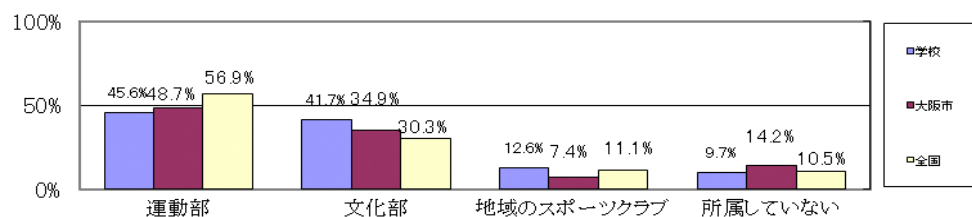
検証項目3

中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思いますか。



検証項目4

学校の部活動や地域のスポーツクラブに所属していますか。



成果と課題

検証項目1では、「好き」と肯定的な回答をした生徒が大阪市・全国平均を上回った。検証項目2では、「大切」と肯定的な回答をした生徒が大阪市平均を上回ったが、全国平均を下回った。検証項目3では、肯定的な回答をした生徒が大阪市・全国平均を大きく上回った。

運動部の所属が少なく、文化部の所属が多いことから、運動を通じて「楽しさ」を理解させながら、興味関心を高めるような指導方法の検討が必要であると考えます。

今後の取組

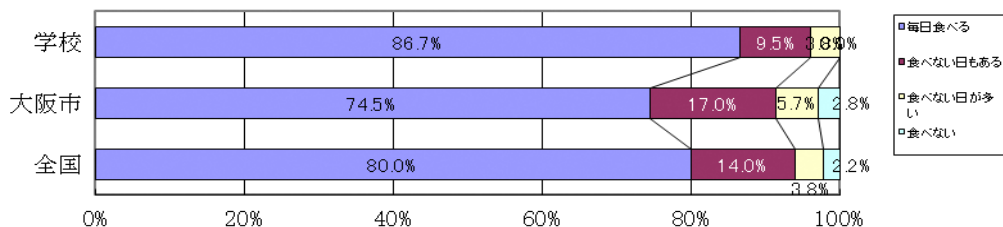
- ニュースポーツ(アルティメット、ドッジビー、インディアカなど)の導入。
- 体育的行事の充実。
- 運動環境の整備。

ふだんの生活について(男子)

本校の特徴的な結果

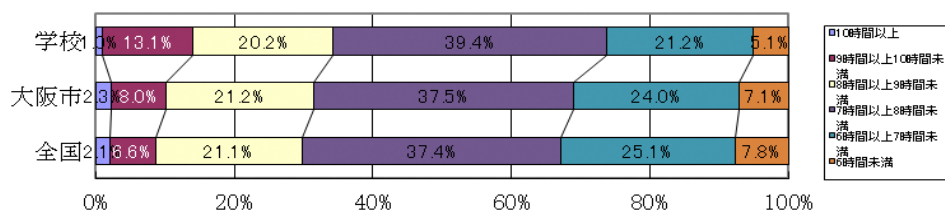
検証項目1

朝食は毎日食べますか。
(学校が休みの日も含む)



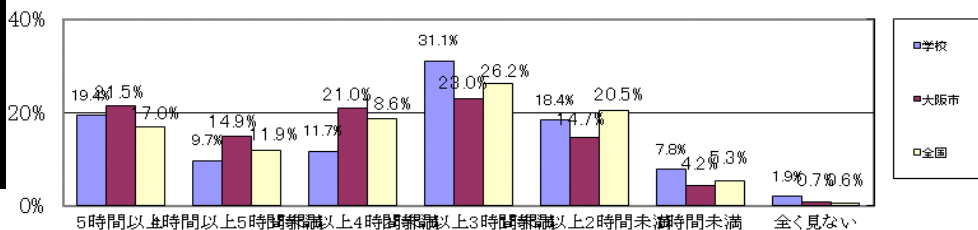
検証項目2

毎日どのくらい寝ていますか。



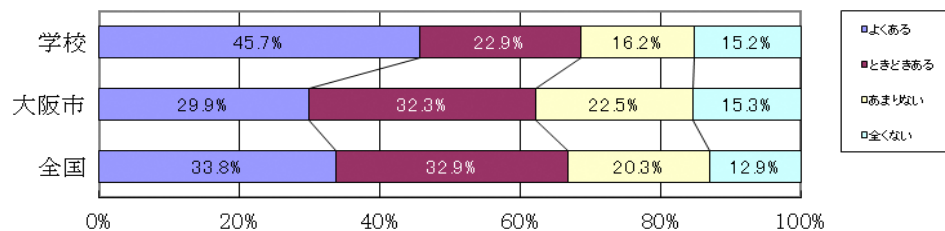
検証項目3

平日(月～金曜日)について聞きます。学習以外で、1日にどれくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか。



検証項目4

放課後や学校が休みの日に、運動部活動や地域のスポーツクラブ以外で運動やスポーツをすることができますか。



成果と課題

検証項目1では、「毎日食べる」と回答した生徒が86.7%と高く、全国・大阪市平均を大きく上回った。検証項目2では、「8時間以上の睡眠」が全国・大阪市平均を下回った。検証項目3では、「2時間以上のテレビ・スマホ・ゲームなどの画面を見ている」が全国・大阪市平均を下回った。検証項目4では、「よくある」と回答した生徒が45.7%と高く、全国・大阪市平均を大きく上回った。

実社会や生活で役立つ力を身につけることができる指導方法の検討が必要であると考えます。

今後の取組

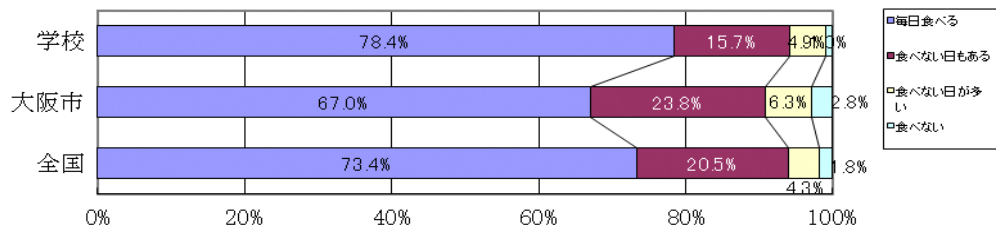
- 保健授業の教材研究。(健康な生活と疾病の予防①②・心身の機能の発達と心の健康)
- 保健室との連携、横断的指導実践。

ふだんの生活について(女子)

本校の特徴的な結果

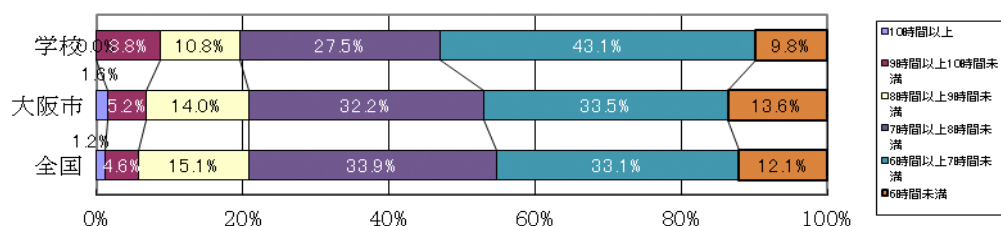
検証項目1

朝食は毎日食べますか。
(学校が休みの日も含む)



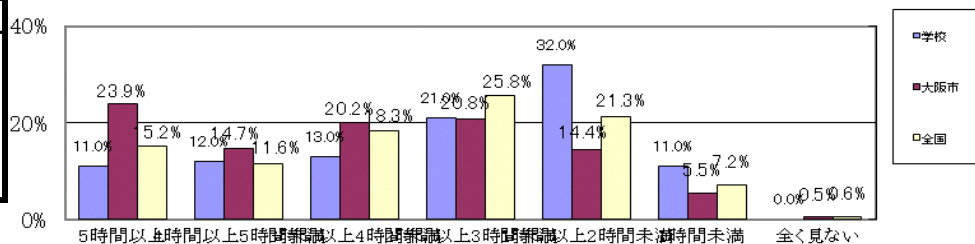
検証項目2

毎日どのくらい寝ていますか。



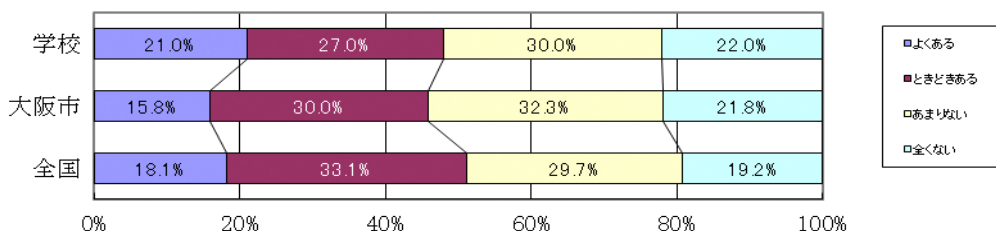
検証項目3

平日(月～金曜日)について聞きます。学習以外で、1日にどれくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか。



検証項目4

放課後や学校が休みの日に、運動部活動や地域のスポーツクラブ以外で運動やスポーツをすることができますか。



成果と課題

検証項目1では、「毎日食べる」と回答した生徒が全国・大阪市平均を上回った。検証項目2では、「8時間以上の睡眠」が全国・大阪市平均を下回った。検証項目3では、「2時間以上のテレビ・スマホ・ゲームなどの画面を見ている」が全国・大阪市平均を下回った。検証項目4では、「よくある」と回答した生徒が全国・大阪市平均を上回った。

実社会や生活で役立つ力を身につけることができる指導方法の検討が必要であると考えます。

今後の取組

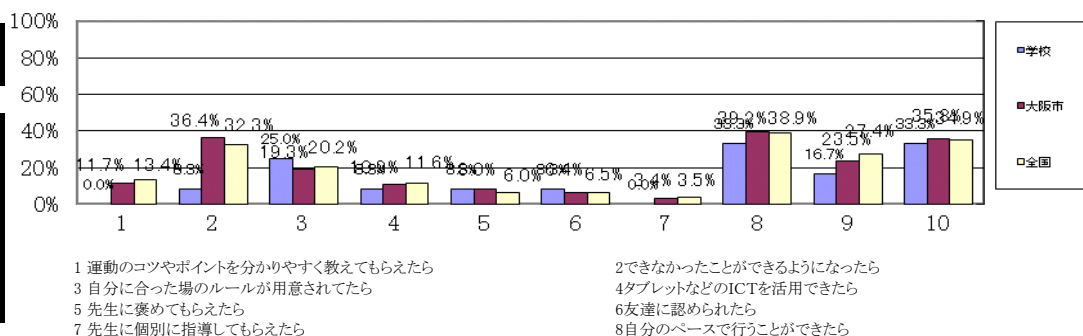
- 保健授業の教材研究。(健康な生活と疾病の予防①②・心身の機能の発達と心の健康)
- 保健室との連携、横断的指導実践。

保健体育の授業について①(男子)

本校の特徴的な結果

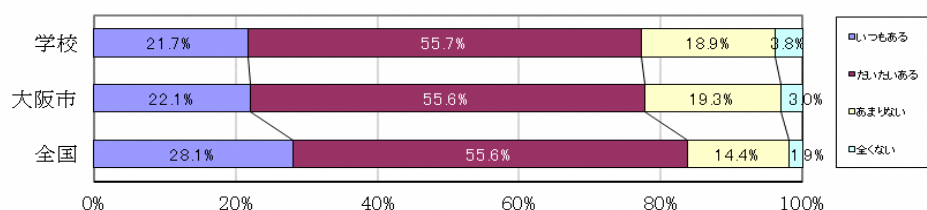
検証項目1

今後どのようなことがあれば、今より体育の授業が楽しくなると思いますか。当てはまるものをすべて選んでください。



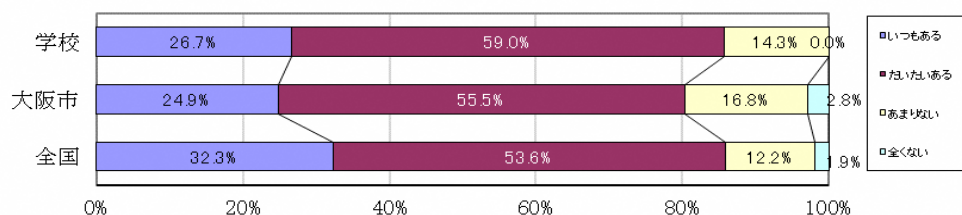
検証項目2

保健体育の授業では、自分に合った練習の方法を選んで学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



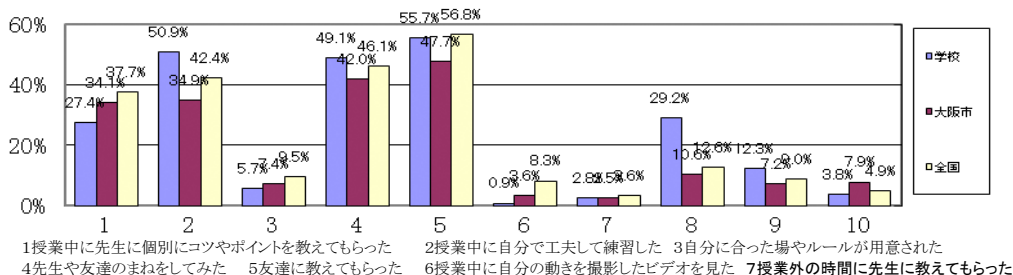
検証項目3

保健体育の授業では、友達と助け合ったり、教え合ったりして学習することで、「できたり、わかったり」することがあります。



検証項目4

これまでの保健体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか。当てはまるものを全て選んでください。



成果と課題

検証項目1では、「自分に合った場のルール」「自分のペースで行うことができた」「その他」と回答した生徒が多かった。検証項目2では、肯定的な回答をした生徒が全国・大阪市平均を下回った。検証項目3では、肯定的な回答をした生徒が大阪市平均を上回ったが、全国平均を下回った。検証項目4では、「授業中に自分で工夫して練習した」「先生や友達のまねをしてみた」「友達に教えてもらった」と回答した生徒が多かった。
個に応じた指導や場の設定及び効果のある協同学習など、授業内容の工夫・改善を図っていきたい。

今後の取組

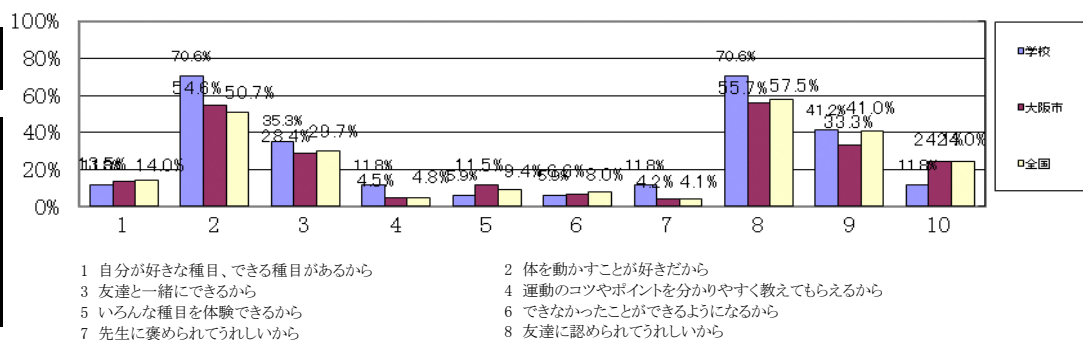
- 体育授業の教材研究。
- アクティブラーニング（コミュニケーション・課題解決力の育成）を取り入れた教育実践。
- 習熟度別授業の実施。
- 補習授業の実施。

保健体育の授業について①(女子)

本校の特徴的な結果

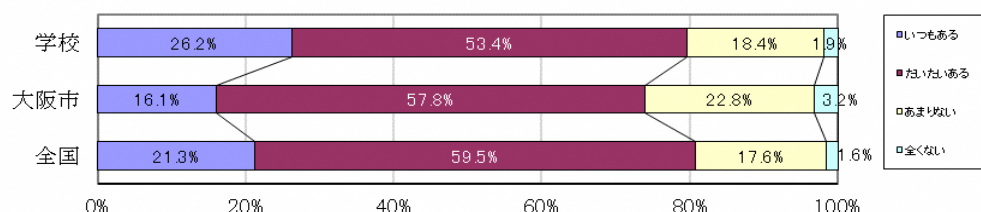
検証項目1

今後どのようなことがあれば、
今より体育の授業が楽しくなる
と思いますか。当てはまるもの
をすべて選んでください。



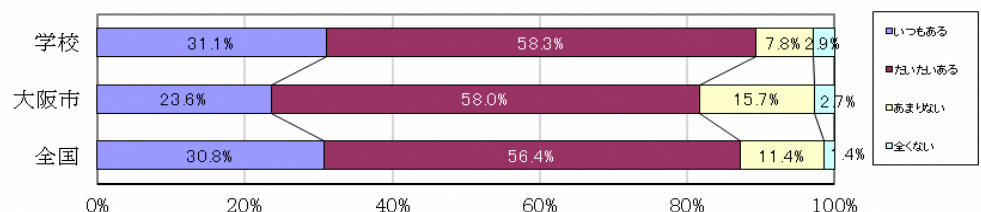
検証項目2

保健体育の授業では、自分に
合った練習の方法を選んで学
習することで、「できたり、わ
かったり」することがあります
か。



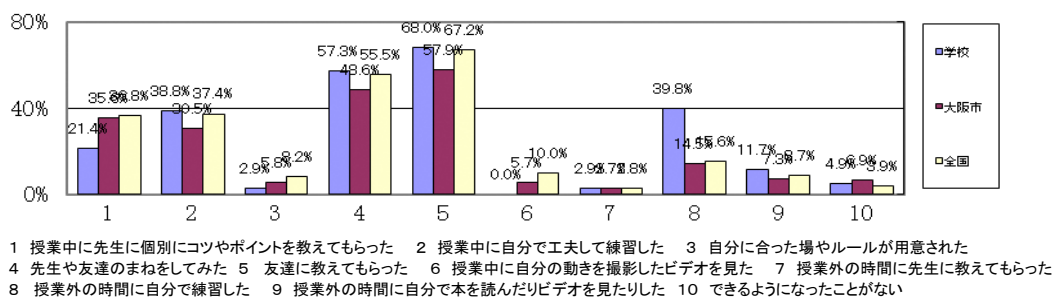
検証項目3

保健体育の授業では、友達と
助け合ったり、教え合ったり
して学習することで、「できたり
、わかったり」することがあり
ますか。



検証項目4

これまでの保健体育の授業で
「できなかったことができるよ
うになった」きっかけ、理由はど
のようなものがありましたか。当
てはまるもの全てを選んでくだ
さい。



成果と課題

検証項目1では、「できなかったことができるようになったら」「先生に個別に指導してもらえたら」「人と比較されないようになったら」と回答した生徒が多かった。検証項目2では、肯定的な回答をした生徒が大阪市平均を上回ったが、全国平均を下回った。検証項目3では、肯定的な回答をした生徒が大阪市・全国平均を上回った。検証項目4では、「友達に教えてもらった」「先生や友達のまねをしてみた」「授業外の時間に自分で練習した」と回答した生徒が多かった。
個に応じた指導や場の設定及び効果のある協同学習など、授業内容の工夫・改善を図っていきたい。

今後の取組

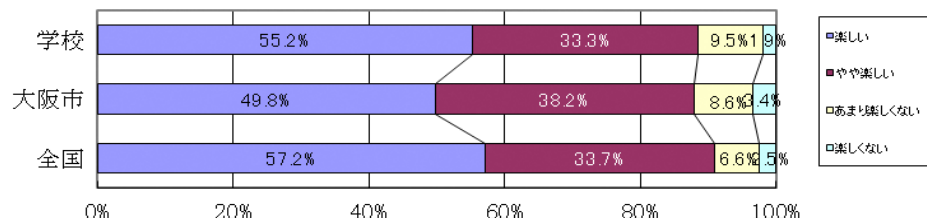
- 体育授業の教材研究。
- アクティブラーニング（コミュニケーション・課題解決力の育成）を取り入れた教育実践。
- 習熟度別授業の実施。
- 補習授業の実施。

保健体育の授業について②(男子)

本校の特徴的な結果

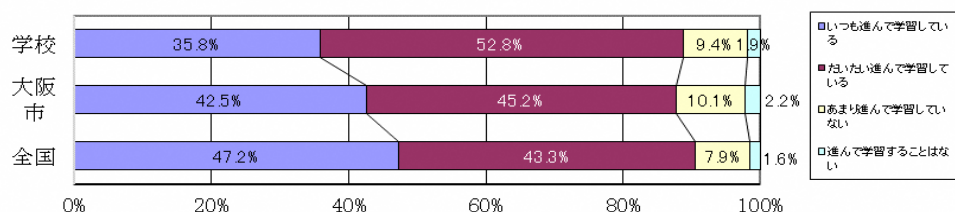
検証項目1

保健体育の授業は楽しいですか。



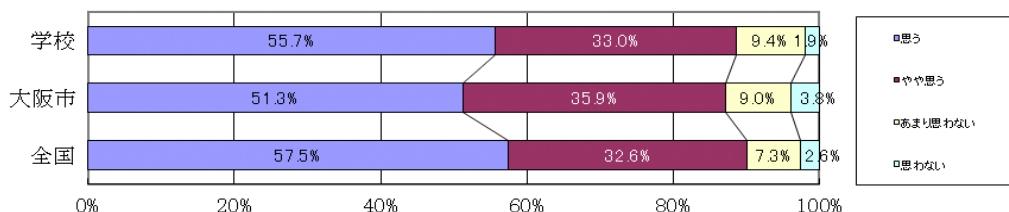
検証項目2

保健体育の授業では、進んで学習に参加していますか。



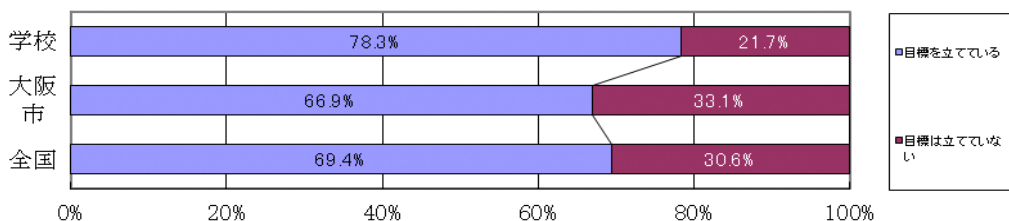
検証項目3

保健体育の授業を受けることは、あなたの生活を健康で明るいものにする1つの要素になっていますか。



検証項目4

体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てていますか。



成果と課題

検証項目1～3では、肯定的な回答をした生徒がいずれも大阪市平均を上回ったが、全国平均を下回った。検証項目4では、「目標を立てている」と回答した生徒が78.3%と全国・大阪市平均を大きく上回った。

できなかったことができるようになる楽しさを感じ、その種目の特性や魅力に触れる喜びを味わせる授業を展開し、運動やスポーツの実施への好循環へとつなげたい。また、運動量の確保、仲間と協力しての課題解決及び練習やゲームで自ら工夫できるなど、連帯感や達成感を与えることができる授業の展開を目指したい。

今後の取組

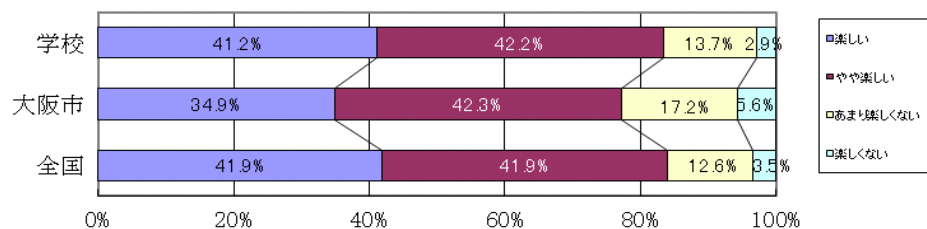
- 体育授業の教材研究。
- アクティブラーニング（コミュニケーション・課題解決力の育成）を取り入れた教育実践。
- 習熟度別授業の実施。
- 補習授業の実施。
- 測定結果の掲示。

保健体育の授業について②(女子)

本校の特徴的な結果

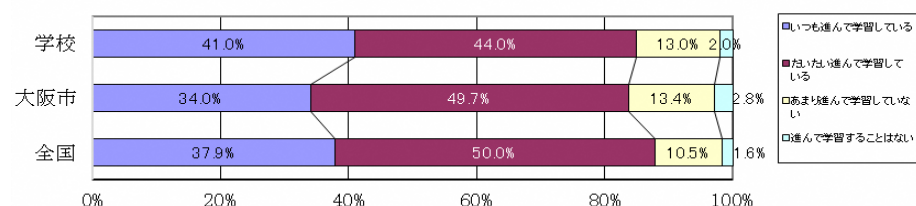
検証項目1

保健体育の授業は楽しいですか。



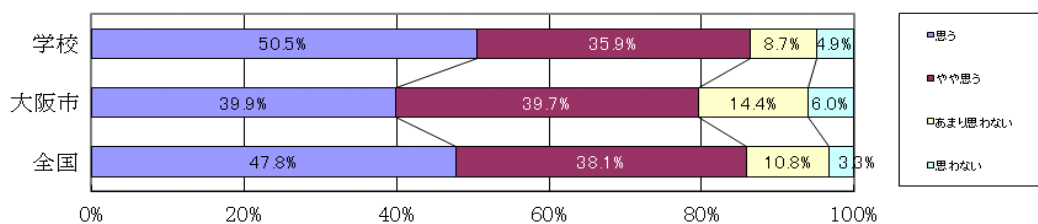
検証項目2

保健体育の授業では、進んで学習に参加していますか。



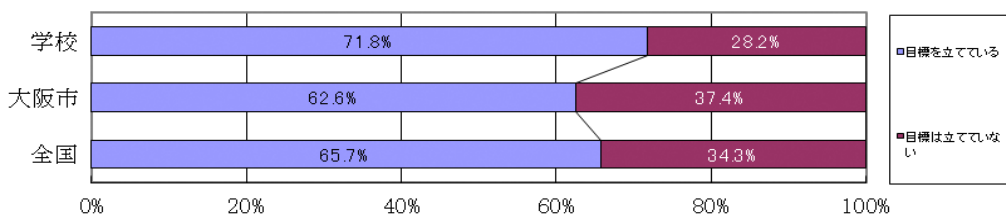
検証項目3

保健体育の授業を受けることは、あなたの生活を健康で明るいものにする1つの要素になっていますか。



検証項目4

体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てていますか。



成果と課題

検証項目1・2では、肯定的な回答をした生徒がいずれも大阪市平均を上回ったが、全国平均を下回った。検証項目3では、肯定的な回答をした生徒が大阪市・全国平均を上回った。検証項目4では、「目標を立てている」と回答した生徒が全国・大阪市平均を上回った。

できなかったことができるようになる楽しさを感じ、その種目の特性や魅力に触れる喜びを味わせる授業を展開し、運動やスポーツの実施への好循環へとつなげたい。また、運動量の確保、仲間と協力しての課題解決及び練習やゲームで自ら工夫できるなど、連帯感や達成感を与えることができる授業の展開を目指したい。

今後の取組

- 体育授業の教材研究。
- アクティブラーニング（コミュニケーション・課題解決力の育成）を取り入れた教育実践。
- 習熟度別授業の実施。
- 補習授業の実施。
- 測定結果の掲示。